

ひふくししょう
旧広島陸軍被服支廠の概要について



令和 6 年11月
広島県都市圏魅力づくり推進課

【建物の背景】

- 陸軍の軍服・軍靴等を製造・貯蔵する施設として、大正3年（1914年）竣工。
- 1945年に被爆し、被爆者の臨時救護所として使用され、多くの方が亡くなった。
- 以降、旧広島大学等の校舎、物流会社の倉庫として約40年間使用。（～平成7年）
- 現在までに博物館・美術館など様々な利活用構想が検討されたが、実現に至らず。
- 令和5年11月、国の文化審議会が重要文化財に指定するよう答申、翌年1月に指定。
令和6年度から、最小限の安全対策工事を実施予定。
- 併せて、今後の建物の利活用に向けては、次の3つの方向性で整理。
 - ① 県民・来訪者の交流促進を目指した文化や芸術、生涯学習の拠点
 - ② 広島 naturally や歴史・文化、平和等を学べる拠点
 - ③ 国内外の人々が訪れ、県民と繋がり、広島を体感するための拠点

【建物の規模・構造】

区分	第1～3号棟	第4号棟	合計
所有者	広島県	国	—
外寸 (長さ×幅×高さ)	91.13×25.68×15.25	105.57×25.68×15.25	—
構造	鉄筋コンクリート造3階建外壁はレンガ組積造		—
建築面積	2,340.09×3棟＝7,020.27	2,684.29	9,704.56
延床面積	5,578.66×3棟＝16,735.98	4,985.12	21,721.10
敷地面積	12,469.88	4,716.20	17,186.08

【建物の外観・特色】

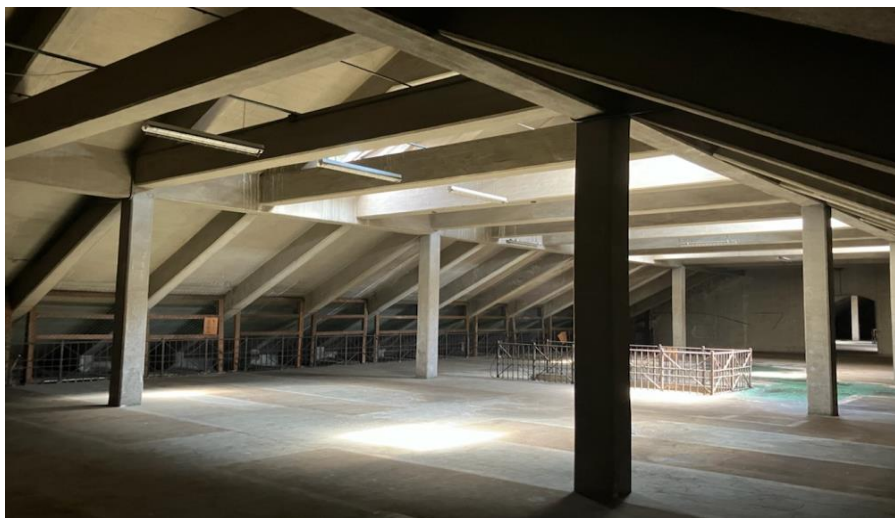
- レトロな外観とモダンな内部を併せ持つ独特な建物が連なり**500mにも及ぶ歴史的な景観**を形成。
- 国内最古級の鉄筋コンクリート造りであるとともに、外壁に煉瓦造りを併用するなどの高度な建築技術は、建築物としても歴史的な価値が高い。
- 原爆の爆風により変形した鉄扉や、救護施設として数多くの被爆者を受け入れた歴史があり、**被爆建物としても価値が高い。**



(500mにも及ぶ歴史的景観)



(煉瓦造の外壁)



(鉄筋コンクリート造の内部（3階）)



(変形した鉄扉)

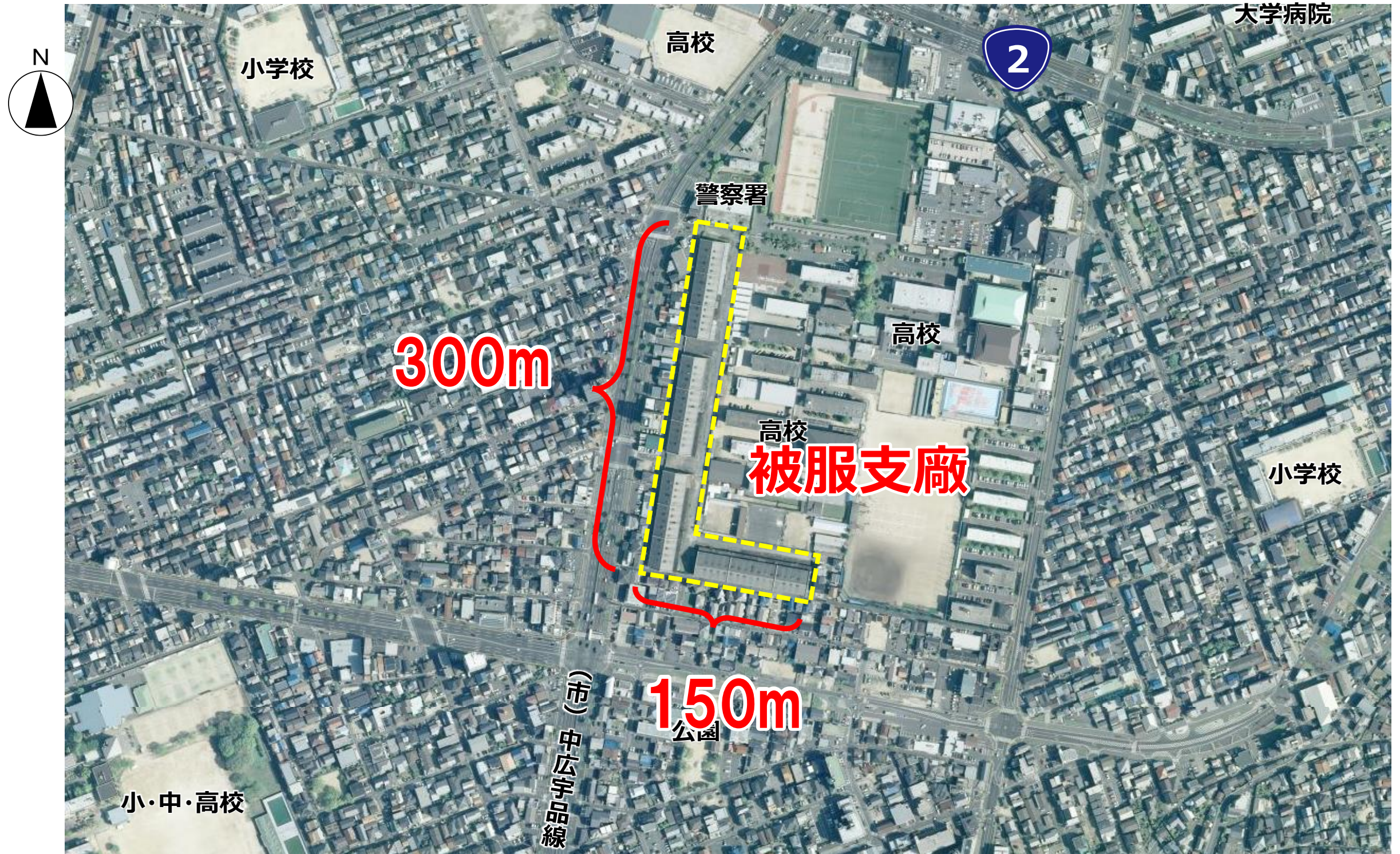
【建物の位置図（広域）】

- 所在地は、広島市南区出汐（でしお）二丁目4番60号
- JR広島駅から約2.5km、原爆ドームから約3.5km、広島港から約3kmに立地。
- 平和記念資料館や原爆ドームと併せ、平和に関する回遊ルートに位置付けることも可能。

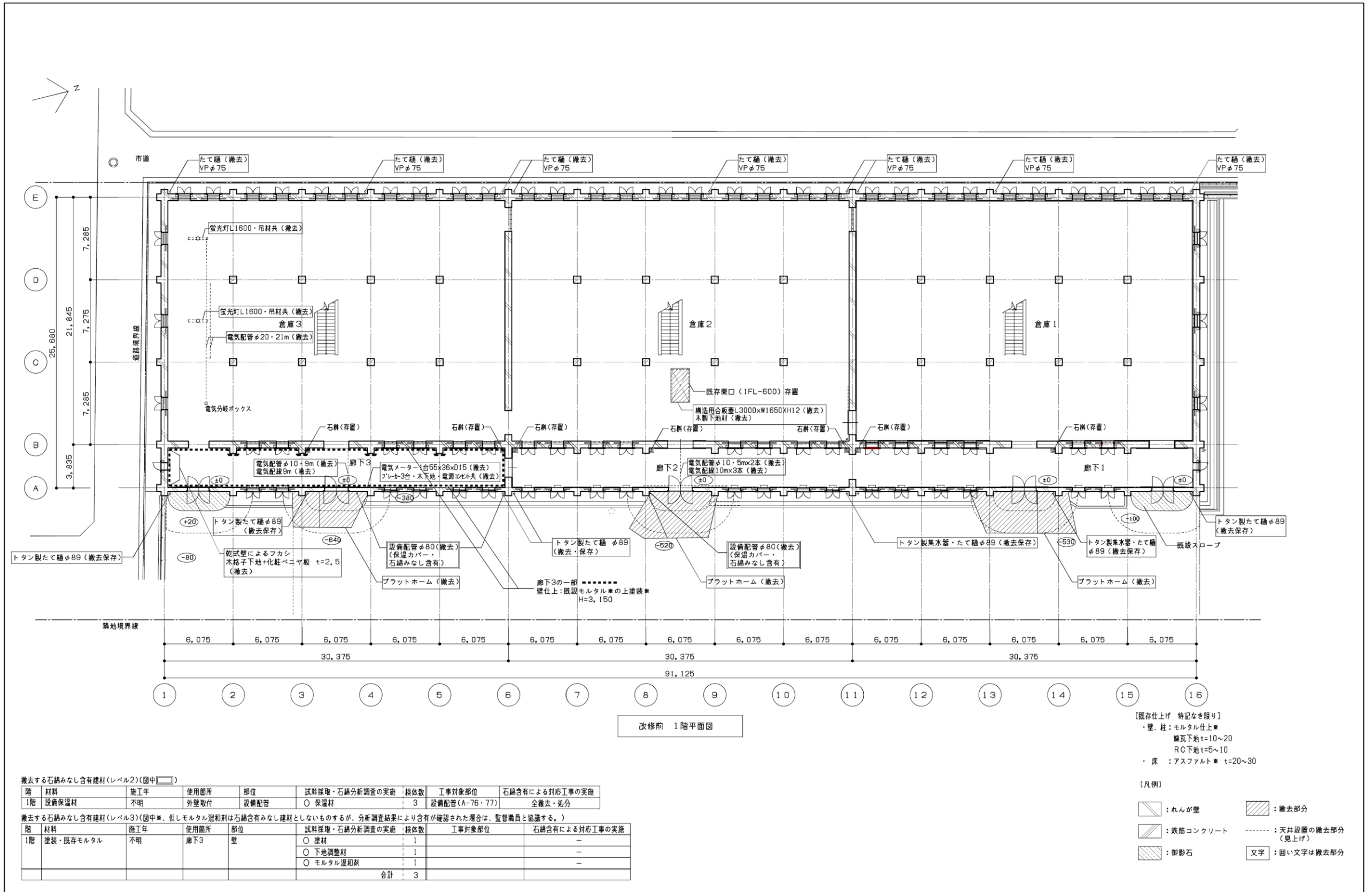


【建物の位置図（近隣）】

- 近隣地域は住宅地が広がるエリアであり、小学校、高校などの多数の学校が立地。
- 北側に広島南警察署、東側に広島県立工業高校が隣接。



【建物の内部（平面図）】



1. 基本的な考え方

守る	将来にわたって 「被服支廠の存在を活かしていく」 「被服支廠の価値を継承していく」 「歴史と平和の大切さを伝えていく」
----	--

- 活用を進めるにあたって、将来にわたって守り続けることを忘れてはならない。
- 被服支廠の建物そのものを守るだけでなく、その価値や歴史、文化的背景も守っていく必要がある。
- 守り続けるためには、時代の変化の中で変えたほうが良いもの、変えてはいけないものを検討し続ける必要がある。

被服支廠の存在を活かしていく

- 被服支廠自体（構造物）が存在し続ける
- まちなかの巨大な空間 等

被服支廠の価値を継承していく

- 建築物としての価値
- 重要文化財級と言われる文化的価値
- 被爆の痕跡が残る被爆建物としての価値 等

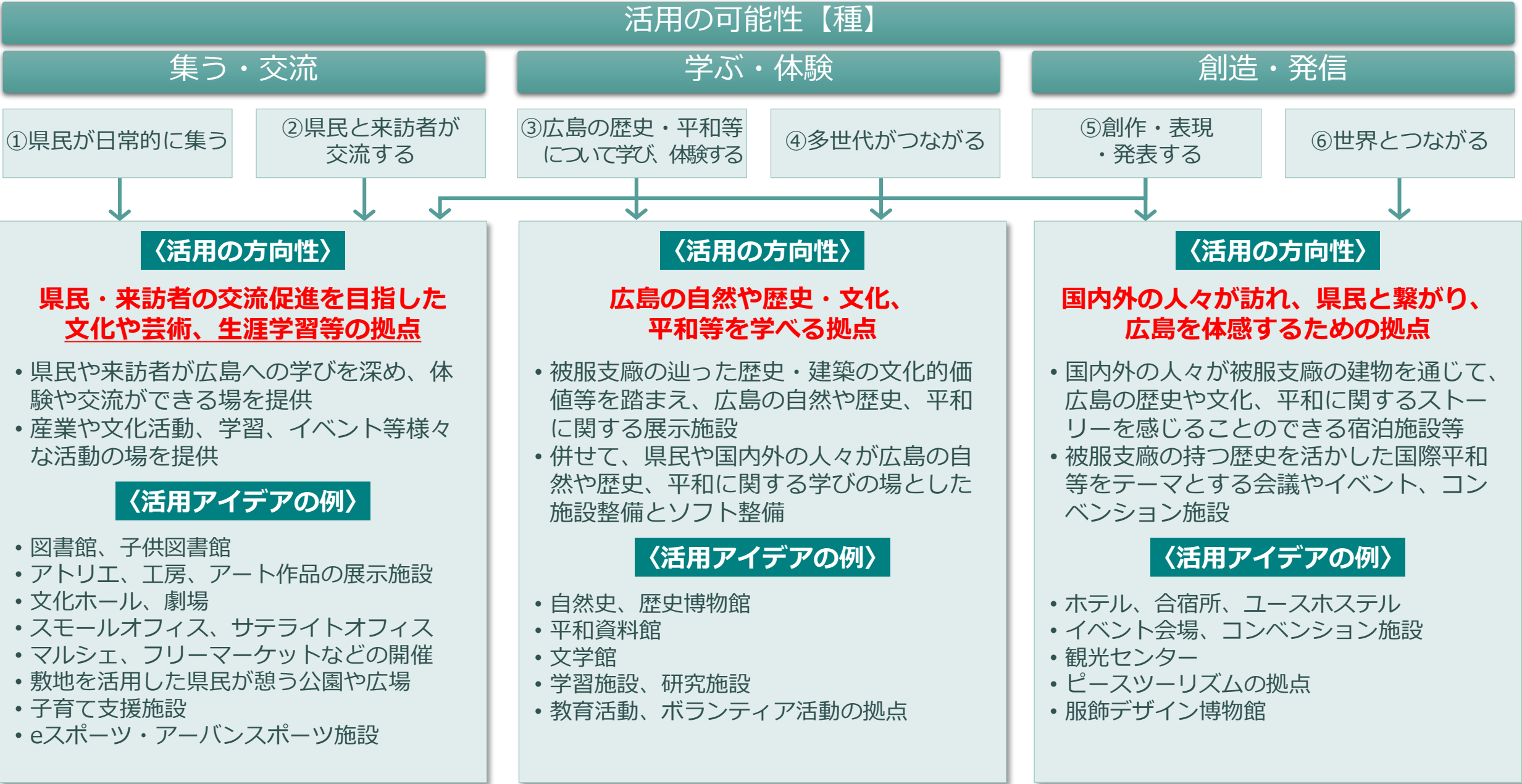
歴史と平和の大切さを伝えていく

- 広島をの歴史を物語る建築物であること
- 被爆直後に、被爆者救護のための臨時救護所となったこと 等

2. 活用の方向性

育てる 将来にわたって 様々な種を時代の変化に即しながら育てていく

- 実際の活用にあたっては、被服支廠の巨大な空間に、様々な機能が複合的に導入されることが現実的。
- 新しい機能（活用の可能性【種】）を基に、具体的な活用のアイデアを踏まえて、「活用の方向性」を3つの柱として取りまとめた。
- なお、具体的な活用内容については、国・県・広島市で構成する研究会において、被服支廠の最終的な活用策の議論・検討を行っていく。



※ここで示した「活用アイデアの例」はワークショップや懇談会で出たアイデアであり、活用を決定したものではない。

【沿革等】

年		摘 要
大正 3	1914	竣工 陸軍被服支廠（現在109年経過） 陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う。
昭和20	1945	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和27	1952	国立広島大学整備のため，交換により，大蔵省から3棟を取得
昭和31	1956	日本通運に貸付け（H7年3月まで約40年間）
平成 6	1994	広島市が被爆建物として登録 ■この間，様々な利活用構想が検討されるが，活用されないままとなっている。
		・瀬戸内海文化博物館（仮称）構想（H7 県） ・エルミタージュ美術館分館誘致構想（H12 県） ・折り鶴ミュージアム（仮称）構想（H23 広島市）
平成30	2018	○耐震性能等調査結果「震度 6 強の地震で倒壊する可能性」（30年1月） ○耐震改修試算 ・内部利用（博物館等） 1 棟約 3 3 億円， 3 棟で 1 0 0 億円 ・建物保存のみ 1 棟約 2 8 億円， 3 棟で 8 4 億円 ■大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故 （30年6月）
令和元	2019	建物の安全性の確保と建物が有する価値等を考慮して， 「1棟保存・2棟解体」の対応方針案を示す。



【沿革等】

年		摘 要
令和 2	2020	煉瓦壁の倒壊防止を目的として，建物壁面補強調査・実施設計業務を実施（2年1月～2年9月） ⇒調査の中で，煉瓦壁の強度が高いことが判明（2年5月）
		煉瓦壁の強度を踏まえ，改めて建物の詳細調査を実施（2年10月～12月） ■煉瓦壁は地震等による倒壊の恐れはないものの 各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な対応が必要 ■国指定の重要文化財級の価値がある。 ■概算工事費：1棟約5.8億円，3棟で17.4億円
令和 3	2021	詳細調査結果を踏まえて， ○重要文化財級の価値があり，建物の解体を俎上に載せることは適当でないこと。 ○概算工事費は，低減される見込みであること。 ○広島市からは，3棟保存を求められていること。 ⇒1棟保存，2棟解体」の現行方針案の見直しも含め， 最終的な方向性を検討・整理するとの方針を示す。
県議会6月	定例会	早急に実施する必要がある安全対策等の検討に必要な予算を提案し可決・成立 ○安全対策に係る建物3棟の実施設計 ○重要文化財の指定に向けた建築物の価値調査 ○活用の方向性のとりまとめに向けた検討
		令和4年度末に完了
令和 5	2023	国、県、広島市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」において、 最終的な活用策の議論・検討を実施中。

